

起業家増アイデアは 地域活性化へ「サミット」

八戸

「ベンチャーサミット2018 in 八戸」が1月27日、八戸市の八戸グランドホテルで開かれた。県内外の経営者や市民ら約150人が参加し、八戸地域で起業家を増やし、地域活性化につなげるためのアイデアを考えた。

八戸学院大学の太谷真樹学長は、2009年に始まった同大学の起業家養成講座が10年目を迎え、修了した156人のうち30人が起

業または新規事業に着手したことを報告した。

太谷学長は「座学ではなく、議論することを推奨し語り合う場を作った。起業家というと首都圏のすごい人というイメージが強いが、自分とあまり変わらぬ人が身近で頑張っているという、等身大のロールモデルを提供してきた」と同講座の歩みを振り返った。

また、ハネルデイスカッションでは、県外経営者らが八戸地域で事業を起こすためのアイデアを話し合った。ドリーム



起業家養成講座の歩みを振り返る太谷学長

ビジョン(東京)の平石郁生代表取締役

社長は音楽配信サービス世界最大手「スウェーデンに居る」を例に「スウェーデンに居ながら、世界を相手に英語

でビジネスをやっている。八戸でもできる」と語学の必要性を強調した。同サミットは青森COC

+推進機構起業実行プログラムワーキンググループが主催した。(新村菜穂)